

志段味ヒューマン・サイエンス・タウン整備推進連絡会議
専門部会（サイエンスパーク B ゾーンの土地活用について）

日 時：平成24年10月25日 午後2時00分～

場 所：名古屋都市センター11階大研修室

..... 議事次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. メンバー紹介

4. サイエンスパーク B ゾーンについて

5. 先進事例紹介

(1) 国におけるスマートシティに関する施策について

(2) 柏の葉キャンパスシティプロジェクトについて

(3) 豊田市におけるスマートシティについて

6. フリーディスカッション

7. 閉 会

志段味ヒューマン・サイエンス・タウン整備推進連絡会議 専門部会

日時:平成24年10月25日(木) 14:00~

出席者名簿

場所:名古屋都市センター11階大研修室

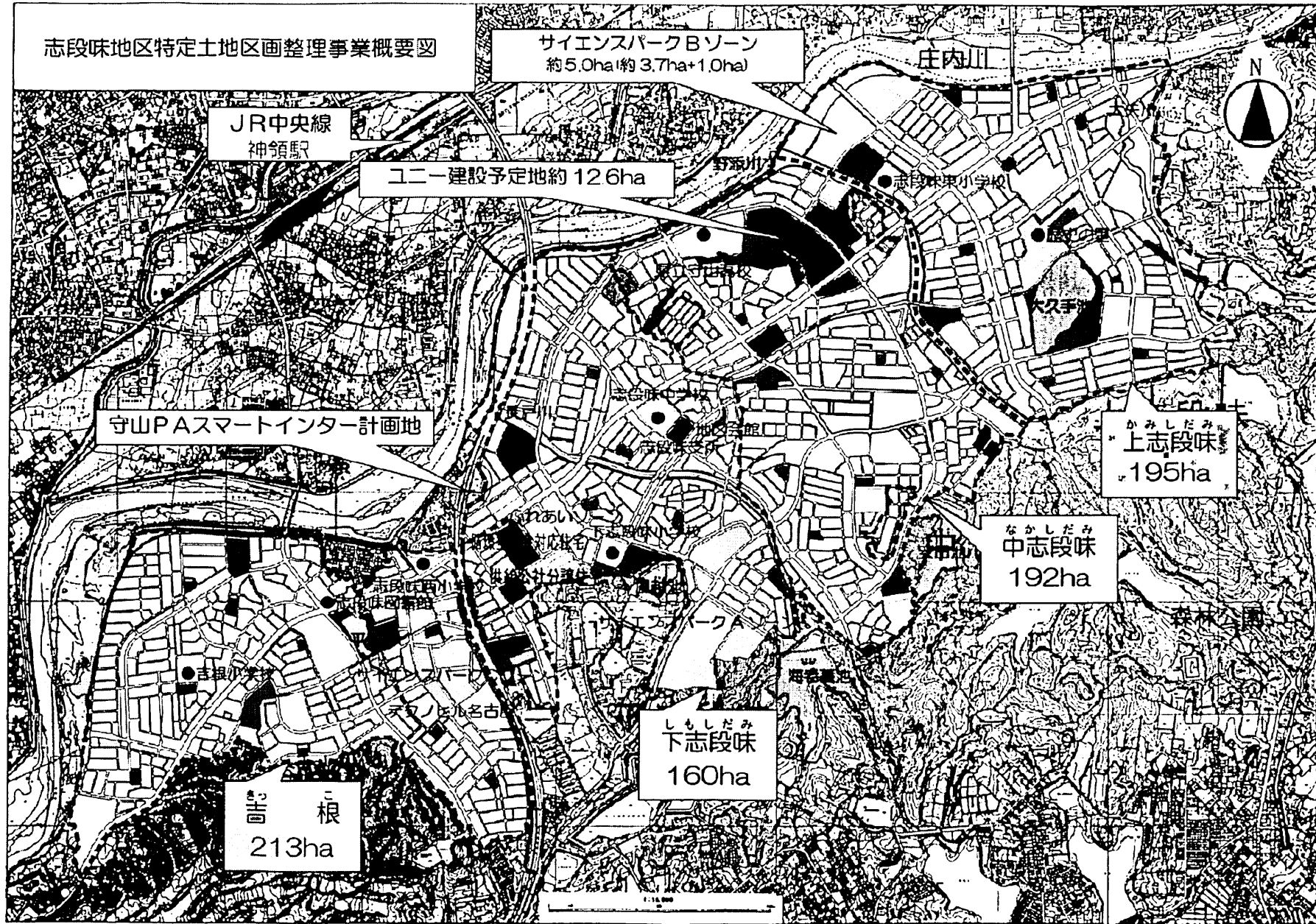
【会 長】	住宅都市局まちづくり企画部長
【副会長】	市民経済局産業部長
【委 員】	
市民経済局	産業経済課長
住宅都市局	まちづくり企画課長
住宅都市局	まちづくり企画部主幹(志段味総合整備)
環境局	環境企画課長
経済産業省	中部経済産業局地域経済部
東邦ガス㈱	企画部エネルギー政策リーダー
東邦ガス㈱	エネルギー政策・制度グループ
東邦ガス㈱	技術企画部技術企画グループ
ユニー㈱	開発本部
名古屋まちづくり公社	志段味開発部
中部大学	工学部都市建設工学科教授 服部敦
【オブザーバー】	
総務局	企画課長
緑政土木局	企画経理課主幹(企画)
財政局	管財課長
豊田市	総合企画部環境モデル都市推進課長

【事務局（住宅都市局区画整理課）】

志段味推進係長、主査（志段味）

サイエンスパークBゾーンについて

志段味地区特定土地区画整理事業概要図



サイエンスパークBゾーン
約5.0ha(約3.7ha+1.0ha)

JR中央線
神領駅

ユニー建設予定地約12.6ha

守山PAスマートインター計画地

かみしだみ
上志段味
195ha

なかしだみ
中志段味
192ha

しもしだみ
下志段味
160ha

こね
根
213ha

0 500 1,000 1,500 2,000 2,500

公園・緑地

注：上図は概要を示したもので、事業計画変更されている場合もあります。



夕刊

中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

お前の法律家

事務所
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
電話 (052) 571-5221

なごやサイエンスパーク

市、大学誘致を断念

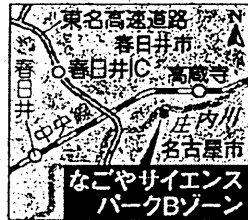
Bゾーン売却も検討

名古屋市は二十五日、大学や研究機関の誘致を目標とする「なごやサイエンスパークBゾーン」(守山区、十のの事業計画を見直し、誘致を事実上断念する考えを明らかにした。今後は用地の売却も検討する。これまで土地取得や利息などに計二百三十一億円を費やしてきたが、時価推計は六十七億円。差額は百六十億円以上のぼろ。

投入資金と 差額160億円

少子化により大学が都会へ回帰する流れの中、誘致が進まずに用地が「塩漬け」になっていた。この日の市議

会本会議で、新開輝天直しをせざるを得ない市民経済局長は「昨今の厳しい経済情勢を踏まえ、Bゾーンは次世代産業の創出を掲げる『なごやサイエンスパーク』の断念するなど事業の見直しを断念する



「事業の一環。JR高蔵寺駅から徒歩約十分で、二〇一三年度を目標に産学官連携の拠点として大学や企業の研究機関の誘致を目指す。

バブル経済の絶頂期だった一九八九年から、市土地開発公社が六年間かけて百三十六億円で購入した。その後、公社が金融機関から借り入れた利息分や事務管理費に七十六億円がかかっている。

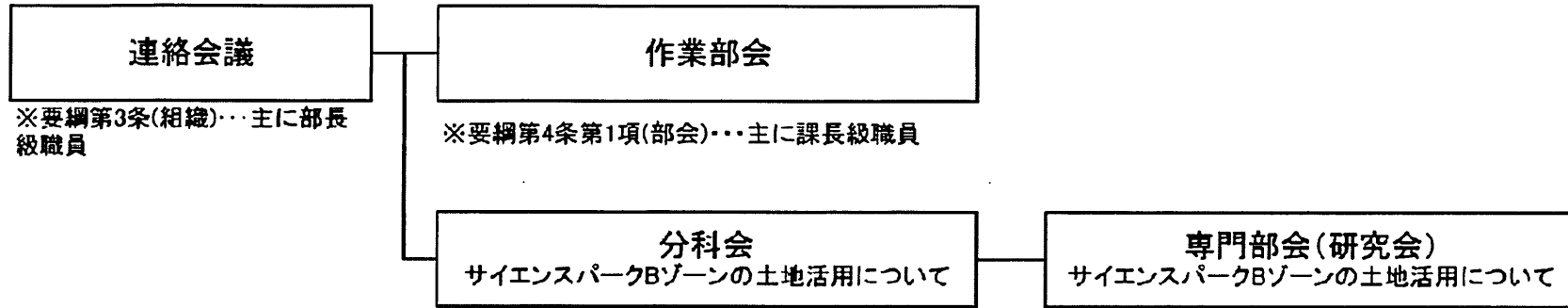
〇六年度からは市が利息分を直接支払い、一般会計から六年度で十九億円を支出。公社と市で総額二百三十一億円を投入した。

市によると、これまで千件を超える理士系大学や企業にアンケート

トし誘致してきた。市担当者は「構想当時は大学が郊外に広いキャンパスを持つ流れだったが、少子化で都心回帰が進んで目算が狂った」と説明している。「サイエンスパークは『局』という。

組織図

(志段味ヒューマン・サイエンス・タウン(HST)整備推進連絡会議)



※要綱第3条(組織)・・・主に部長級職員

※要綱第4条第1項(部会)・・・主に課長級職員

分科会
サイエンスパークBゾーンの土地活用について

※要綱第4条第4項
部会長は、指定する者に専門事項の実現化方策案を作成させることができる。

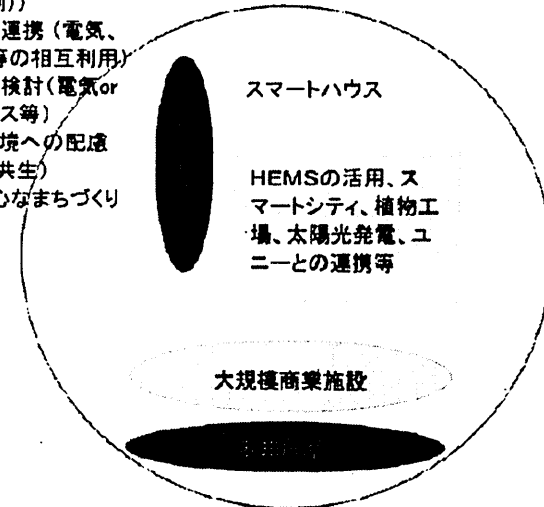
- 会 長 住宅都市局まちづくり企画部長
 - 副会長 市民経済局産業部長
 - 委 員 住宅都市局まちづくり企画課長
 - 委 員 住宅都市局まちづくり企画部主幹(志段味総合整備)
 - 委 員 市民経済局産業経済課長
 - 委 員 環境局環境企画課長
 - オブザーバー 財政局管財課長
 - オブザーバー 緑政土木局企画経理課主幹(企画)
- 月一回程度開催し、年度内を目標に方策案を作成

専門部会(研究会)
サイエンスパークBゾーンの土地活用について

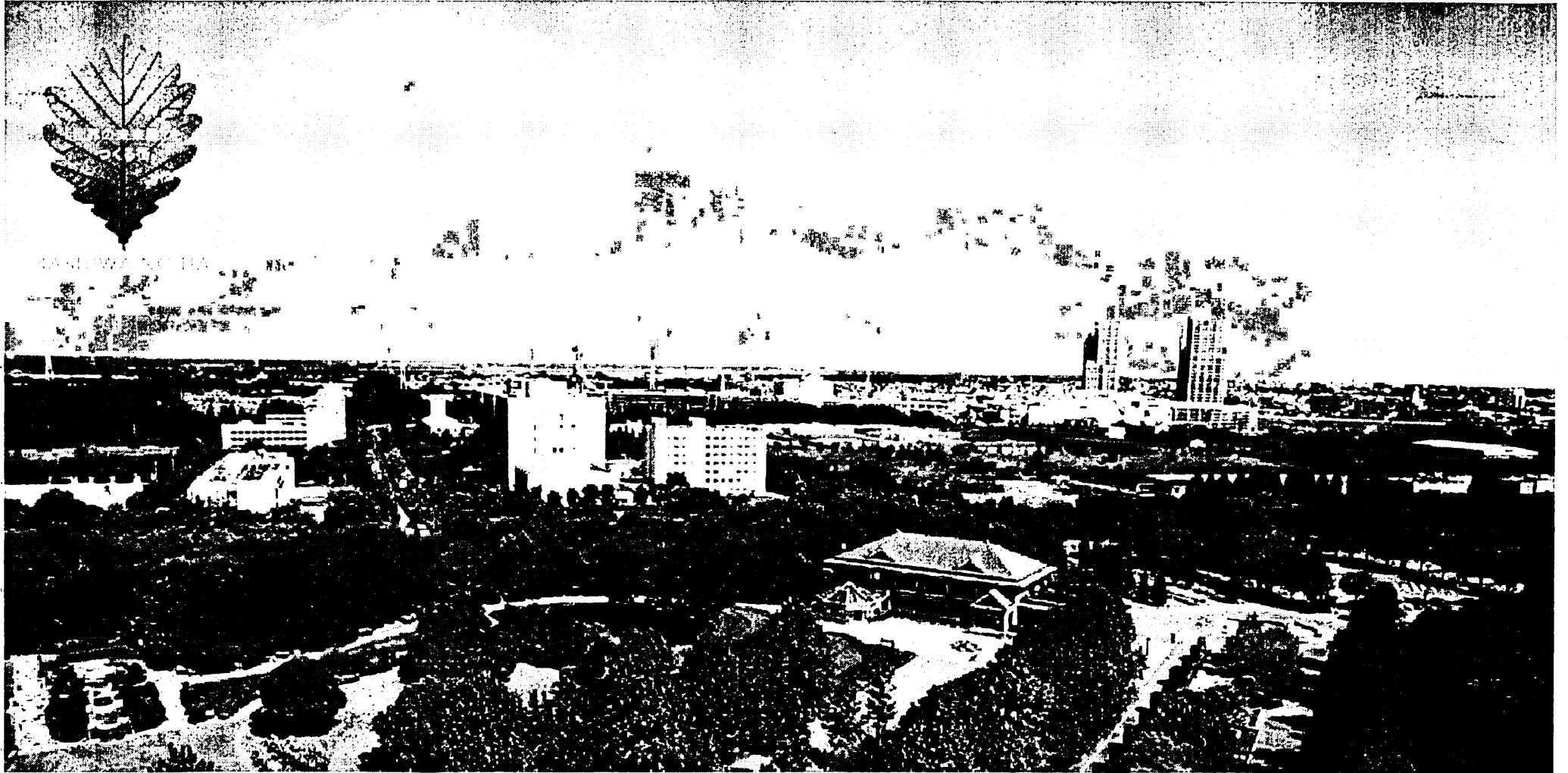
左記の「庁内メンバー」に「民間メンバー」を追加して、サイエンスパークBゾーンの土地活用について専門部会を設置。

(テーマ(例))

- ・各施設の連携(電気、熱、CO2等の相互利用)
- ・交通網の検討(電気or水素コミバス等)
- ・その他環境への配慮(自然との共生)
- ・安全・安心なまちづくり



柏の葉キャンパスシティプロジェクト

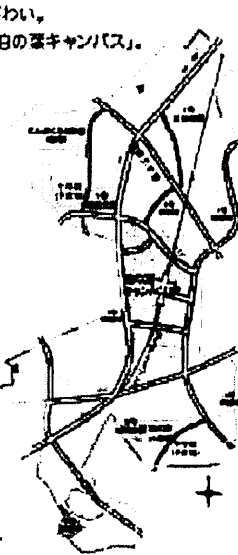


※出典: 柏の葉キャンパスプロジェクトホームページ

柏の葉キャンパスシティ

高度化する都市機能、深まる街の賑わい。
 首都圏屈指のビッグプロジェクト「柏の葉キャンパス」。

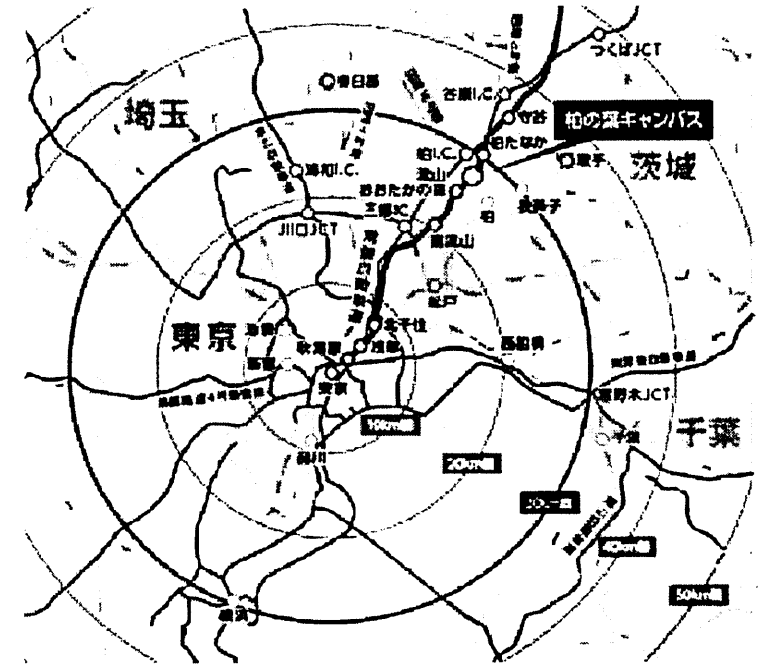
「柏の葉キャンパス」所を中心とした
 柏北地区は、273haという広大な
 スケールに千歳線を基軸とする
 土地回生整理事業によってさまざま
 な都市機能の整備が進行中。鉄道と
 沿線地域の都市基盤整備を一体的
 に進める「一体型土地回生整理事業」と、約25,000人の生活拠点をつ
 くり出す「特定土地回生整理事業」が
 併せて進行しています。すでに大学や
 研究が、高層施設、病院、大規模マン
 ションなどが立ち並びなど都市機能
 を高度化しながら街の賑わいもますます
 深まっています。



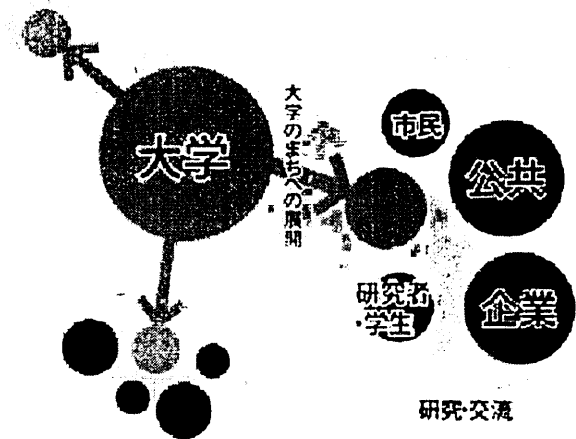
■土地利用計画図
 ■道路計画線 住宅
 ■学校 ■公園

©2011 柏の葉キャンパス株式会社

■柏都市計画事業 柏北地区中央地区一体型特定土地回生整理事業の概要
 事業主体/千歳線 駅付地区/273ha 計画人口/約25,000人

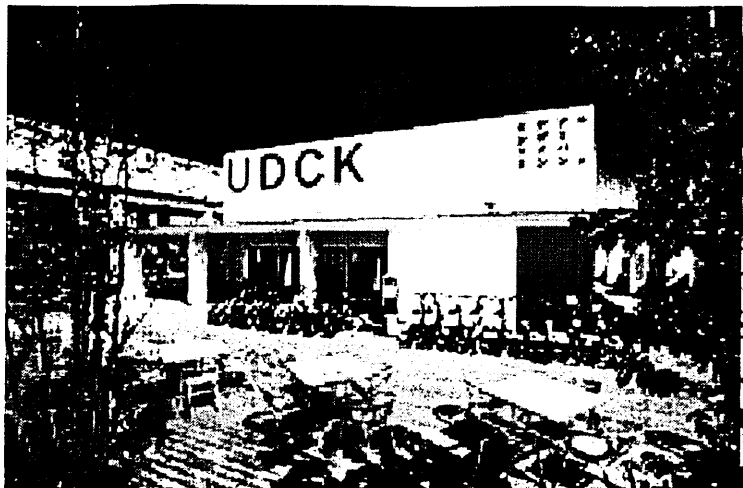


キャンパスから生まれる
 知と産業、文化



環境と健康、交流、創造の
 キャンパス

まちづくりの拠点形成:アーバンデザインセンター柏の葉



公共 民間 大学

柏市
千葉県
柏市都市振興公社

柏商工会議所
田中地域ふるさと協議会
三井不動産
首都圏新都市鉄道

東京大学
千葉大学



(エスポット)
UDCK X 三井不動産



- ・イベント／フォーラム
- ・学習プログラム
- ・社会実験、事業創出
- ・空間デザイン
- ・研究活動
- ・コミュニティ、市民活動
- ・学生プロジェクト

柏の葉キャンパスが目指す将来像

世界の課題解決モデルとなる「柏の葉スマートシティ」

環境共生都市

- 地域でエネルギーを一元管理
- 省エネ・創エネ・蓄エネを推進
- エネルギーと食の“自産自消”
- 低炭素型の新しい都市交通
- 災害時でもライフラインを確保

健康長寿都市

- 地域連携による疾病・介護予防
- 高齢者の積極的な社会参画
- ICTを活かした多世代間交流で
誰もが生き生きと暮らす社会

新産業創造都市

- 日本が誇る「技術力」を活かした
ベンチャーを地域で支援
- グリーン経済を支える新産業
- 国際的なベンチャーコミュニティ創生

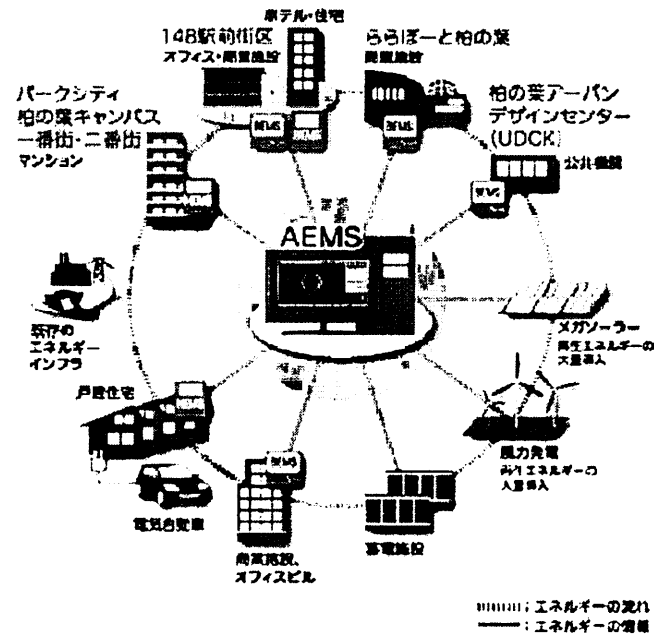
安心・安全・サステイナブルなスマートシティ

環境共生都市

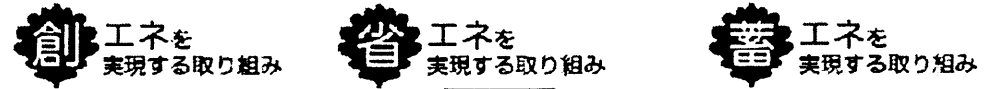
柏の葉ならではの豊かな自然環境を地域資源として活かしながら「省エネ・創エネ・蓄エネ」や次世代交通システム、緑化プログラムなどの整備を通じて世界をリードする未来型の環境共生都市をめざしています。

◎ エネルギー効率利用・防災対策

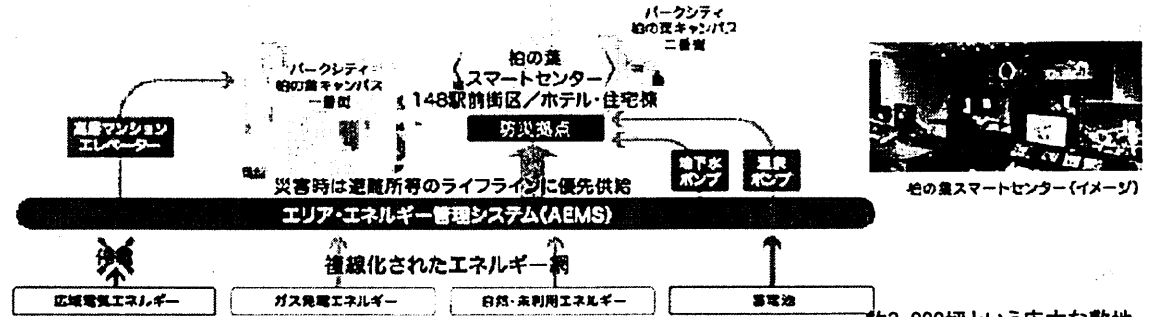
「AEMS: エリアエネルギー管理システム」をコアに、エネルギー利用の最適化、地域相互の最適化を指向。



- 太陽光発電
- 各世帯の電気・ガス・水道使用量を「見える化」するCO2削減見える化モニターの設定
- 街全体の蓄電池としても機能する電気自動車のシェアリングシステム
- 風力発電
- LED照明等の高効率機器の導入
- 電力のピークシフト/ピークカットを実現する、2,000kWhNAS蓄電池
- 温泉熱利用
- 生ゴミバイオガス発電
- 消費電力を抑えるタスク&アソシエーション照明・空調等
- ピーク時の空調負荷を軽減する水蓄熱装置
- 排熱利用・複合型コジェネレーション



エネルギーの見える化 → 街全体のエネルギーの最適制御化 → 地域相互の最適化
AEMSで成長し、発展し、つながり合う、柏の葉モデルのスマートシティへ。



約3,000坪という広大な敷地に「食と農」を大切に暮らすを提案する「日本型アグリツーリズム」を目指して誕生。「体験型貸農園」、「農園レストラン」など「食と農」を五感で楽しむためのさまざまな施設が計画されています。

◎ 交通システム

3種の移動手段の最適ミックスからサスティナブルな移動交通を模索する「ITS」。



マルチ交通シェアリング

ICT(情報通信技術)を活用し、自動車交通・公共交通機関・パーソナルモビリティが相互に連携・補完する最適ミックスからサスティナブルな交通移動をめざす取り組みITS (Intelligent Transport System)。移動という視点から環境共生都市の実現に取り組んでいます。

◎ 自然共生・農業

「食」と「農」をつなぐ場所「オークビレッジ柏の葉」が2012年4月オープン。千葉大学による国内最大規模の植物工場が本格運用を開始。



オークビレッジ柏の葉作農風景



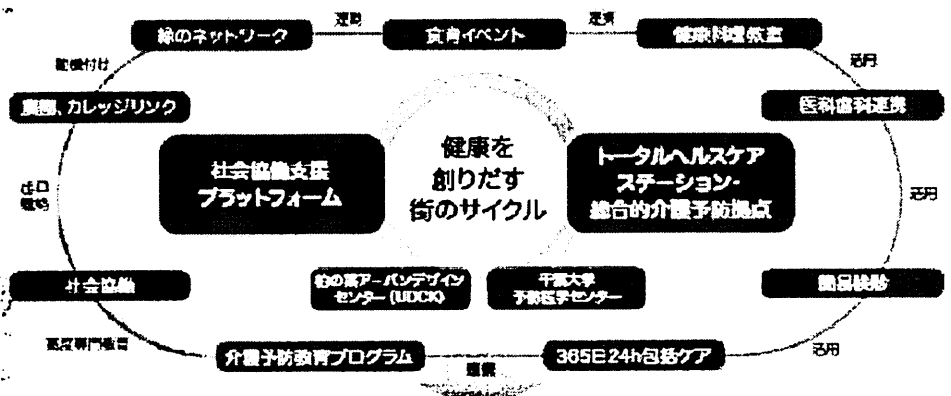
千葉大学 柏の葉キャンパス内植物工場

健康長寿都市

次世代の基幹産業として、また日本の新たな成長戦略を担き出す鍵として「健康」が注目されています。「心の健康スマートシティプロジェクト」では「健康」を源泉として好循環を引き起こす街のサイクルを描き、すべての世代が健康で生きがいを持って住みつけられる、新しい日本のライフスタイルの創出を目指します。

日本型健康ライフスタイルの創出

「はっばっば体操」「クミスタウン」「かほなプロジェクト」「マルシェコロール」といった実証実験を通じて体験する多様なコンテンツを活動させる「健康」を創りだす街のサイクルにより、高齢者やシニア層だけでなく、親世代や子供たちも含めた多層的な活動を引き出します。こうした総合的な健康増進環境を「社会協働支援プラットフォーム」と「トータルヘルスケアステーション・総合的介護予防拠点」が支えるしくみを構築しています。



未来をひらく子ども、はつらつとした親世代
活躍する元気シニア、自分らしく暮らす高齢者
それぞれのライフスタイルを実現します

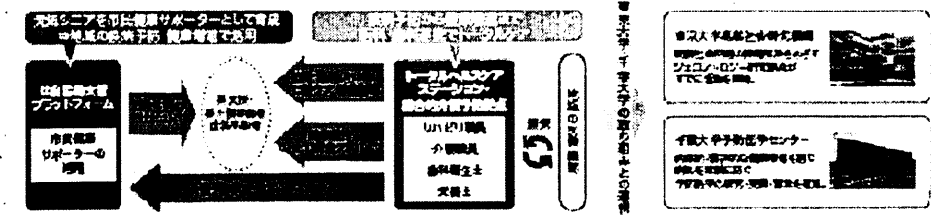
健康分野に関する研究の集積や企業の参画、
子育て支援環境の充実、
多世代交流風土の醸成を目指します

社会協働支援プラットフォーム

元気高齢者が社会の支え手になる未来像。
多世代の互助と交流を促進し元気を高齢者の活躍を支援。加えて「市民健康リポーター」の養成プログラムを提供し、元気な高齢者が社会を支えていく仕組みづくりを進めています。

トータルヘルスケアステーション・総合的介護予防拠点

疾病予防・介護予防を包括的に提供する拠点。
「総合特区」「健康長寿都市」の基盤に基づいて、介護ケアや口腔ケアと一体的な疾病予防・介護予防サービスを提供する「トータルヘルスケアステーション」の創設をめざします。



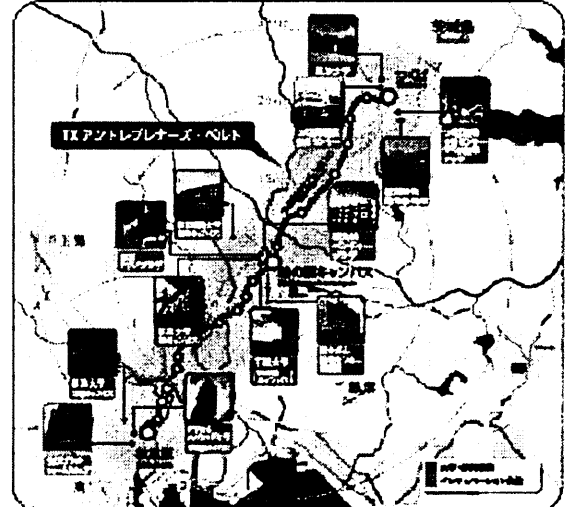
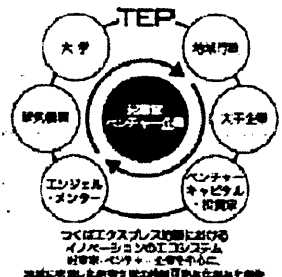
新産業創造都市

沿線のポテンシャルをフルに活用した
沿線のリーダーシップによるイノベーションの創出で
新たな産業活動がいま大きくスタートしています。

創業育成

TEP TX ENTREPRENEUR PARTNERS TXアントレプレナーパートナーズ

沿線の起業家やベンチャー企業を育成・支援するTXアントレプレナーパートナーズ[TEP]
日本有数の国立大学や研究機関が集積し、多くの先端技術やそれを支える人材、多様なインキュベーション施設が集まるつくばエクスプレス沿線エリア「TXアントレプレナーズ・ベルト」のポテンシャルを活かし、健全な日本経済の発展的成長を促すことを目指し、2009年1月にTXアントレプレナーパートナーズ[TEP]を設立しました。TEPは、地域の大学、研究機関、行政、民間企業、そして個人の専門家が集まり、日本で唯一のベンチャー企業支援ユニティとして成長しており、地域に伝播したイノベーションのエコシステム構築を進めています。



投資に限らず共に経営を行う「ハンズオン」支援
大学や研究機関における技術や知見を商業化する際には、ベンチャー企業とのビジネス提携、資金面、あるいは世界的マーケットに付する視野の拡大が必要です。TEPでは、投資のほか経営についても共に汗流して行う「ハンズオン」支援を行うことで、自ら投資還元率を高めるとともに、経営経験の無いベンチャー企業の健全な成長をサポートしています。



グローバルネットワーク

ASIAN ENTREPRENEURSHIP AWARD

HOSTED BY FUTURE DESIGN CENTER

アジアの若い起業家が一堂に会する、日本発の国際的なビジネスイベント「アジア・アントレプレナーシップ・アワード」開催
若い起業家にとって、世界中から集った仲間と相互に学び合い、熱意を共有し明確なビジョンを共有することは、多くの困難を乗り越えて自らの事業を突き進むための大きな自信になります。本アワードは、アジア各国との連携による日本主導のイノベーション推進プロジェクトとして、アジアひいては世界のメンターやベンチャーキャピタルが参画するベンチャー育成の一環ネットワークの創出を目指しています。

一般社団法人フューチャーデザインセンター【FDC】は、我が国が誇る優秀な経営者、研究者、実践の先進者たちを擁しているため、2009年7月に設立されました。

環境未来都市、総合特区(内閣府)に選定

未来型の都市経営: 「公民学連携による自律した都市経営」		
環境・エネルギー問題への解決モデル: 「スマートシティ」 エネルギー効率利用・低炭素化のモデル街の実現 災害時スマートエネルギーシステムの構築	超高齢化社会への解決モデル: 「健康長寿都市」 人と環境に優しく、自律都市を支えるITS スマートタウン トータルヘルスケアステーションの創設によるサービス参加者の増加	日本経済再生を担う解決モデル: 「新産業創造都市」 社会課題に取り組み新たな価値創造を行う「公民学連携」によるまちづくりモデルの確立と世界展開 持続可能な地域経済を実現させる創業育成モデル地区の創出 元気産創者の活躍できるコミュニティ構築

共創する持続可能な仕組み “CO-CREATE ECO-SYSTEM”

公
柏市
千葉県

民
地域住民
三井不動産株式会社
スマートシティ企画株式会社

学
東京大学
千葉大学



公民学連携組織
 柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK)
 TXアントレプレナーパートナーズ (TEP)



街中植物工場コンソーシアム:「ネットワーク型家庭用植物工場」の実証実験

千葉大学、三井不動産、パナソニック、みらいの4団体、植物工場の利用を推進する「街中植物工場コンソーシアム 柏の葉実証部会」を組織 第一弾、「ネットワーク型家庭用植物工場」の実証実験を開始 スマートシティとしての街づくりが進む千葉県・柏の葉キャンパスエリアにて実施

実験期間	2012年9月1日～2013年8月31日 * 2012年7月より、1台のみ先行実施
対象世帯	柏の葉キャンパス駅周辺の10世帯程度
実験内容	・モニター宅における家庭用植物工場での野菜栽培
	・ネットワークを活用した専門家による栽培支援
	・ネットワークを活用したモニター同士の交流支援
参画団体	千葉大学(全体監修、家庭用植物工場外観デザイン)
	三井不動産株式会社(ネットワーク構築、WEBサイト運営)
	パナソニック株式会社(家庭用植物工場製作)
	株式会社みらい(種・苗など栽培レシピ提供、モニター栽培支援)
使用機器	<外寸法>約60cm(幅)×約38cm(奥行)×約85cm(高さ)【予定】
	<光源>LED照明(赤色、白色<青色成分含む>)
	* 自動ON/OFF機能付き
	<栽培可能株数>5~7株
栽培品目	全30種(モニターは、自由に選択して栽培)
	<野菜類>レタス、ロメインレタス、グリーンリーフ、サンチュ、水菜、からし水菜、ミツバ、葉ネギ、春菊、シソ、チンゲンサイ、スープセロリ、エンダイブ、空心菜、小松菜、コカブ
	<ハーブ類>ルッコラ、バジル、ミント、クレソン、マスタードグリーン、セージ、レモンバーム、マジョラム、ディル、セルフィーユ、ヒソップ、イタリアンパセリ、パセリ、コリアンダー
	* 実験期間中、イチゴなど新品目を追加する可能性あり

